

高等教育で利用される OSS への翻訳貢献の現状と課題

オーガナイザ：大西淑雅（九州工業大学），喜多敏博（熊本大学）

オープンソースソフトウェア(OSS)の活用は、高等教育機関における ICT システムにおいて、少なからず導入されており、教育・研究活動を円滑に進める上で不可欠な存在である。

本プレカンファレンスでは、大学 ICT 推進協議会と連携して、高等教育機関で使用されるオープンソースソフトウェア(OSS)における日本語化の現状と課題について、話題提供者からいくつかの報告を行って頂き、翻訳貢献のための基盤（コミュニティやその方法など）の構築について議論を行う。また、話題提供者と参加者との間で OSS に関する様々な情報交換を行う。なお、システム管理者・構築者だけでなく、OSS を活用されている一般利用者・企業の方など、幅広い方の参加を期待する。

プレカンファレンスで取り上げるトピック・話題について簡単に紹介する。詳細については、<https://oss.axies.jp/activity/y2021/jsise20210902/> に公開される情報も参照されたい。なお、話題提供の後に、十分なディスカッション時間を設ける予定である。OSS における翻訳貢献あるいは広い意味での OSS 全般に関して、活発なご意見やコメントなどを当日頂けることを期待する。

- 翻訳プラットフォーム Transifex を用いた翻訳事例(25分)：常盤祐司(Fun@Learn 法政大学)
「大学向 OSS の翻訳に適用する共通翻訳メモリの開発と国際コミュニティへの展開」を推進した常盤先生に話題を提供頂く。具体的には、クラウドベースの翻訳支援システムである Transifex を紹介しつつ、OSS における翻訳支援やコミュニティ形成という観点から、プロジェクトの結果（Sakai, Moodle, Mahara）や課題などについて提供頂く。
- Moodle における翻訳作業の現状と課題(25分)：白井達也(鈴鹿工業高等専門学校)
日本ムードル協会にも所属している白井先生に、Moodle に関する日本語化について、話題を提供頂く。ご自身の経験や体験から、以下に示すトピックを予定している。
 - Moodle における翻訳管理システムの概要
 - 手を挙げるには、訳語に関する情報を共有するには
 - 超訳は許されるのか
- Moodle における言語系 API とカスタマイズ(25分)：喜多敏博(熊本大学)
喜多先生には、Moodle のテキスト文字列の取得（表示）の要となる String API[8]について紹介いただく。本 API により、言語文字列をプラグインと一緒にパッケージ化できる仕組みとなっている。また、Moodle のドキュメントの翻訳作業や、言語カスタマイゼーションなどについても、現状や課題などを例示して頂く。
- 質疑・情報交換・ディスカッション(40分)
OSS ならではの議論点としては、翻訳された文章が機能のどこで用いられているかを意識する必要がある。確認作業のために、ソースを読む必要がある場合もある。また、エラーメッセージの翻訳の良否や英文と日本語のフォーマットの違い、などについても参加者と議論したい。